

前日の冷たい雨から一転、気持ちのいい晴天に恵まれました。先月までと違って出会う昆虫の姿はすっかり少なくなり、その代わりにいろいろな木の実を観察しました。秋の深まりを感じる観察会となりました。

持ち込み観察項目：ヤママユの繭、アベマキのドングリから出るクヌギシギソウムシの写真、アベマキの実、ヒメアカネ、灯火採集のガの標本箱

最初にオオハナワラビを見に行きました。花のように見えるのは孢子囊の穂ですが、穂を叩いても孢子が飛ぶ様子は観察できませんでした。足元の草むらを歩いているコカマキリを見つけてはしゃいでいた子どもにコカマキリを見分けるポイントを尋ねると前脚の内側の黒白ピンクの模様だと話してくれました。ウメの木では3頭のヨコヅナサシガメの幼虫が捕らえたダンゴムシに群がり、口吻を刺して体液を吸っていました。



オオハナワラビ



コカマキリ



ダンゴムシに群がる
ヨコヅナサシガメの幼虫

この日は至るところでひつつきむしが見られ、ヒナタイノコヅチ、コセンダングサ、アメリカセンダングサ、キンミズヒキなど、いくらでも衣類にくつつきそうでした。アメリカセンダングサの花の周りに広がる苞(ほう)がコセンダングサでは目立たず、種は先端のトゲが2本から4本に分かれていました。アメリカセンダングサの種の先端のトゲは2本でした。キンミズヒキは実の周りにかぎ状のトゲが並んでいました。ズミの実がなっているのを見て食べた参加者がいました。「すっぱい」「しぶい」などの感想が聞かれました。



ヒナタイノコヅチ



コセンダングサの花



アメリカセンダングサ



コセンダングサの種



キンミズヒキ



ズミ

去年あずきを観察した畑のあとはハルジオンやノコンギクが一面に咲いて、ちょっとした花畑のようになっていました。ハルジオンの開花時期は6月頃までのはずですが、植物に詳しい参加者によれば気温変化の作用でこの時期に咲いているのだろうとのことでした。中道を進むと、マメガキがたくさん実っていました。よく熟していて、子どもたちも「甘い」と笑顔で食べていました。大事そうに家に持ち帰る子もいました。



ハルジオン



ノコンギク



マメガキ



すぐそばで葉も実も鮮やかに色づいたコマユミの赤が目を引きました。春に控えめな印象の花を咲かせるコマユミの、秋の華麗な変貌ぶりに驚かされます。その横ではノブドウも実をつけ、青紫から明るい青までさまざまに色づいていました。ソウムシに詳しい参加者が、落ちていた竹を割って発見したカグヤヒメキクイソウムシを見せてくれました。竹で捕れるソウムシとのことですが、みんな昔の人のネーミングセンスに感心していました。



コマユミ



ノブドウ



カグヤヒメキクイソウムシ

ガガイモの実を見つけて、中を開けてみました。白くて長い綿毛をつけたたくさんの茶色の種がお行儀よく並んでいました。参加者がアカメガシワの幹にコウモリガの蛹の抜け殻がついているのを紹介しました。コウモリガの幼虫は木の幹に侵入し食害したあと木の表面で蛹になります。周辺ではたくさんの抜け殻が見つかりました。



ガガイモの実



ガガイモの実の中



コウモリガの抜け殻

その足もとの草むらにきれいなカエルがいるのに気づきました。カエルの大好きな参加者が呼ばれてニホンアカガエルとわかり、子どもたちが喜んで取り囲んでいました。エノキの枝の上に変った力が止まっているのに気づいた参加者がいて、調べるとキバラモクメキリガという名の、成虫で越冬するガでした。そのエノキの葉を裏返すとどの葉も粉を吹いたように白くうどんこ病にかかっていた。そしてキイロテントウの成虫や蛹が見つかりました。キイロテントウは幼虫も成虫もうどんこ病の菌などの菌類をエサにする益虫で、成虫で越冬します。



ニホンアカガエル



キバラモクメキリガ



キイロテントウ

子どもが採ってきたカラスウリの実は1本のつるに3個も実がついていました。水辺のミソハギの茎ではガの幼虫が見つかり、あとからナシケンモンの幼虫とわかりました。そして最後に、中道でニホンマムシが虫網で捕らえられて大騒ぎになりました。くらしの森では初めての捕獲でした。長さを測るとだいたい70cm弱でした。



カラスウリの実



ナシケンモンの幼虫



ニホンマムシ

平和公園での観察項目(観察順)：オオハナワラビ、イヌタデ、アレチヌスビトハギ、チヂミザサ、キイロテントウ、コカマキリ、トウカエデの紅葉、ヒナタイノコヅチ、ヨモギハムシ、アカホシテントウの成虫と抜け殻、タマカタカイガラムシ、ヨコヅナサシガメの幼虫、ツチイナゴ、キンミズヒキ、コセンダングサ、アメリカセンダングサ、ジョロウグモ、ズミ、ヨウシュヤマゴボウ、イボタノキ、ハルジオン、ノコンギク、キツネノマゴ、マユタテアカネ、オオタカ、コマユミ、ノブドウ、マメガキ、ナンテン、ハエトリグモの仲間、ヤブマメ、ガガイモの実、アキノノゲシ、チカラシバ、ヌカクギ、アケビの実、カグヤヒメキクイソウムシ、コウモリガの抜け殻、ニホンアカガエル、うどんこ病のエノキの葉についたキイロテントウの成虫と蛹、キバラモクメキリガ、キダチコンギク、カラスウリ、ヤマウルシ、オオハナワラビ、ナシケンモンの幼虫、ニホンマムシ